

2018年5月15～16日

審査会、院内集会、安保・自衛隊、新潟知事選、翁長知事、岸井さん死去

自公、国民投票法改正で一致＝与野党共同提案目指す

自民、公明両党は15日、憲法改正手続きを定めた国民投票法に関し、船舶乗組員による「洋上投票」の対象拡大などを盛り込み、今国会での改正を図ることで一致した。

17日の衆院憲法審査会の幹事会に条文案を提示し、与野党共同提出を目指す。

衆院議員会館で開かれた会合には、自民党の細田博之憲法改正推進本部長、公明党の北側一雄憲法調査会長らが出席。席上、公職選挙法についても、寝たきり状態の高齢者などが郵便で投票できる要件を緩和する改正案の提出で合意した。具体的には最も手厚い介護が必要な「要介護5」だけでなく、要介護3、4にも対象を拡大する。(時事通信 2018/05/15-20:15)

自公、国民投票法改正案で合意 今国会成立目指す

日経新聞 2018/5/15 20:00 記事保存

自民、公明両党は15日、憲法改正の手続きを定めた国民投票法の改正案について合意した。2016年の公職選挙法の改正などを踏まえたもので、商業施設などに設ける「共通投票所」でも国民投票をできるようにする。17日の衆院憲法審査会の幹事会で与党案として野党に示し、今国会の提出、成立を目指す。

自公両党の憲法と選挙制度の実務者が国会内に集まり、合意した。改正案は8項目からなり、洋上投票の対象を広げたり、期日前投票所の投票時間を柔軟に設定できるようにしたりする。いずれも公選法の改正に対応するものだ。

衆院憲法審査会は17日、国民民主党の結党に伴う新幹事選任のため今国会で初めての審査会を開く。与党はこれに先立つ幹事会で改正案を示し、早期の審議入りを目指す。野党は国民投票法改正を巡り、与党案にないテレビCM費の上限規制などを求めており、与党案が野党の理解を得られるかは見通せない。

産経新聞 2018.5.15 21:44 更新

【憲法改正】自民、公明両党が国民投票法改正案で合意 洋上投票などを拡大 17日に野党に示し共同提案を目指す



公明党憲法調査会の北側一雄会長

自民、公明両党は15日、憲法改正の手続きを定めた国民投票法の改正案をめぐる実務者協議を開き、改正条文案について合意した。洋上投票の拡大など平成28年の公職選挙法の改正内容に沿って国民投票法も改めるもので、今国会中に成立させる考えだ。17日に開く衆院憲法審査会幹事会で野党側に条文案を示す。ただ野党は慎重な姿勢を崩していない。

与党が合意した改正案は投票環境の改善が目的だ。デパートなど商業施設への「共通投票所」の設置や投票の開始・終了時間の弾力化など、改正公選法で新たに盛り込んだ7項目を国民投票法に反映させる。

また、公選法で介護保険法上の「要介護5」の人に認められる郵便投票の対象を「要介護3、4」にも拡大するため、公選法と国民投票法を合わせて改正することでも一致した。

公明党の北側一雄憲法調査会長は協議後、記者団に今国会成立を目指す考えを示した上で、「改正公選法は全会一致で成立しているの、野党と共同提出できればいい」と語った。

衆院憲法審は17日、今国会初の審議が開かれるが、幹事の選任が行われるだけで実質的な議論はしない。憲法9条改正に反発する立憲民主党などが難色を示しているためだ。

与党は、立憲民主党も理解を示している国民投票法改正案を審議再開の呼び水としたい考えだが、野党は国会での与野党対立の激化も踏まえ、受け入れる気配はない。

自衛隊明記に反対相次ぐ 野党、自民改憲案巡り

共同通信 2018/5/15 20:24

安倍晋三首相が目指す憲法改正に反対する法律家による会合が15日、国会内で開かれた。憲法9条に自衛隊の存在を明記する自民党の改正条文案に関し、出席した野党議員から反対意見が相次いだ。立憲民主党の山花郁夫憲法調査会長は戦力不保持などを定める現在の9条2項を空文化させると指摘し、「むちゃくちゃな話だ」と批判した。

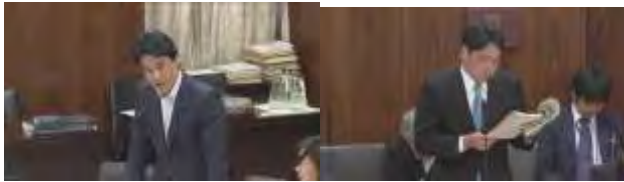
共産党の赤嶺政賢衆院議員は「軍事優先の内容だ。絶対に阻止する」と強調した。社民党の福島瑞穂副党首も「世界各地で自衛隊が戦争できるようになってしまう。改憲発議はさせない」と訴えた。

山花氏は、自民案の緊急事態条項新設についても反対を表明。

自衛官暴言 小西議員「文民統制否定」防衛相「私的な言動」 NHK5月15日 14時43分

現職の幹部自衛官が暴言を繰り返した問題をめぐり、参議院外交防衛委員会で、暴言を受けた小西洋之議員が、「文民統制を否定する行為だ」と主張したのに対し、小野寺防衛大臣は、私的な言動で文民統制に支障を来すものではない

などと反論しました。



小西洋之議員は先月、防衛省の統合幕僚監部の3等空佐から、「気持ち悪い」、「国益を損なう」などと暴言を受け、15日の参議院外交防衛委員会で、「議会活動、政治活動に大きな影響が出ており、文民統制を否定する行為だ」と主張しました。

これに対し、小野寺防衛大臣は「不適切な発言を行ったことはおわびするが、私的な言動であり、文民統制に支障を来すことは想定されない。国会による統制は、国会議員と一自衛官の関係を律したのではなく、文民統制が否定されたことにはならない」と反論しました。

そのうえで、「文民統制の趣旨に照らして問題があるとの指摘も踏まえつつ、こうした事案を断じて繰り返さないよう、隊員全員に必要な教育を実施していく」と述べ、再発防止を徹底する考えを示しました。

また、小西議員が小野寺大臣らに責任をとって辞任するよう求めたのに対し、防衛省の武田博史人事教育局長は、「私的な行為については、上司に責任を問わないのが通例だ」と述べ、小野寺大臣も「局長の答弁したとおりだ」と述べました。

小野寺防衛相「秋田、山口」を明言＝陸上イージス配備、地元説明へ

小野寺五典防衛相は15日の閣議後の記者会見で、陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」について、秋田、山口両県を配備先の候補地として検討していると明言した。地元の首長に説明するため、具体的な日程調整に入ったことも明らかにした。住民への説明については「自治体との協議の中で検討していく」と述べた。

政府は昨年末、北朝鮮の弾道ミサイルへの迎撃能力を強化するため、陸上イージス2基の導入を決定。陸上自衛隊の新屋演習場（秋田市）とむつみ演習場（山口県萩市）が候補地となっている。（時事通信 2018/05/15-11:26）

戦闘機F35Aを追加配備＝三沢基地、月内に7機態勢

小野寺五典防衛相は15日の記者会見で、航空自衛隊の主力となる最新鋭ステルス戦闘機F35Aを1機、同日中に空自三沢基地（青森県三沢市）に追加配備すると発表した。26日にさらに5機を配備し、月内に計7機態勢とする方針だ。（時事通信 2018/05/15-17:31）

安保重視へ政策転換＝海洋基本計画を閣議決定



総合海洋政策本部会合であいさつする安倍晋三首相（右から2人目）＝15日午前、首相官邸

政府は15日午前の閣議で、海洋政策の指針「海洋基本計画」を決定した。計画は5年ごとに見直しており、第3期の今回は、中国と北朝鮮の脅威を明記した。領海警備や離島防衛など安全保障政策を柱に据え、資源開発・保護に重点を置いた過去2回の計画から大きく転換した。

政府は閣議に先立ち、総合海洋政策本部の会合を開催。安倍晋三首相は席上、「四方を海に囲まれたわが国にとり海洋政策は死活的に重要だ。その成否はわが国の国益に直結する」と述べた。

第3期計画は、中国の国名明記は避けつつ、外国公船による領海侵入の活発化や、外国漁船の違法操業など日本を取り巻く環境の変化を指摘。日本の貿易を支えるシーレーン（海上交通路）の安定利用に関しても、中国による南シナ海などでの権益拡大の動きを念頭に「一方的な現状変更やその既成事実化の試み」によりリスクが生じていると強調している。

対策として、南西諸島を含む島しょ部に自衛隊部隊を配置し、海上保安庁による尖閣諸島の領海警備体制を強化。艦船、航空機、衛星、沿岸部設置レーダーを増強し、情報収集機能を拡充する。シーレーンの安全確保のため、沿岸国への装備・技術協力を含む能力構築支援も盛り込んだ。

（時事通信 2018/05/15-09:22）

政府が「海洋基本計画」決定 重点を安全保障に移す NHK5月15日 9時29分



外国公船による領海侵入などを踏まえ、政府は15日の閣議で、今後5年間の海洋政策の指針となる「海洋基本計画」を決定し、重点分野を従来の海洋資源開発から安全保障に移すとしたうえで、人工衛星などの情報を関係府省庁で共有することなどを明記しています。



河野克俊統合幕僚長

政府は、今月 27 日までとなっている防衛省制服組トップの河野克俊統合幕僚長（63）を 3 度目の任期延長とする方針を固めた。15 日、複数の政府関係者への取材で分かった。統幕長の定年は 62 歳。河野氏は 62 歳になった 2016 年 11 月と昨年 5 月の 2 度、自衛隊法の規定に基づき、半年間と 1 年間の任期延長となっていた。今回も延長期間は同程度となる見通し。

安倍晋三首相が首相官邸は、在任が約 3 年半に及ぶ河野氏の手腕を高く評価しており、中国や北朝鮮を巡る安全保障環境の先行きが見通せない中、今後も自衛隊の部隊運用を束ねる役割を担わせるのが適切だと判断したとみられる。

不祥事相次ぐ政権に審判＝与野党総力戦へー新潟知事選

新潟県知事選（6月10日投開票）は、森友・加計学園問題など不祥事や疑惑が相次ぐ安倍政権に対する審判の場となりそうだ。結果は6月20日に会期末を迎える国会最終盤の攻防や、来年の統一地方選、参院選に影響する可能性もあり、与野党は総力戦で臨む方針だ。

自民、公明両党は前海上保安庁次長の花角英世氏を支援する。自民党の二階俊博幹事長は15日の記者会見で「万全を期し、全力を尽くす」と強調した。党本部職員10人近くを送り込み、小泉進次郎筆頭副幹事長ら人気弁士の応援も検討。「公認以上」（党関係者）の態勢を敷く構えだ。

地元では、政権への逆風を考慮し、「推薦などは出さず、『県民党』で戦う方が得策」との声がある。選挙戦について、与党内では「接戦」との見方が強く、15日も塩谷立選対委員長と新潟県連の塚田一郎会長らが戦術を協議した。

一方、立憲民主党など5野党は県議の池田千賀子氏を事実上の統一候補として推す。15日の国対委員長会談でそろって現地入りすることを申し合わせた。社民党の又市征治党首は会見で「政治不信の中で安倍内閣の信を問う。こぞって勝利に向かって努力したい」と語った。

2016年の前回選挙では共産、自由、社民の各党が推薦した米山隆一氏が東京電力柏崎刈羽原発再稼働に慎重論を唱え、勝利した。今回は、再稼働容認派がいる国民民主党と、他の4党の足並みがそろえるかが課題だ。（時事通信 2018/05/15-21:36）

新潟知事選、5野党幹部応援へ

立憲民主党など5野党国対委員長は15日の会談で、新潟県知事選（6月10日投開票）に立候補を表明した新潟県議の池田千賀子氏を応援するため、新潟入りする方針で一致した。5野党統一候補として支援する。（時事通信 2018/05/15-11:22）

花角前海保次長が出馬表明＝「県政の安定実現」ー新潟知事選

閣議決定された今後 5 年間の海洋政策の指針となる新たな「海洋基本計画」は、外国公船による領海侵入や外国漁船の違法操業などを例示し、「わが国周辺海域を取り巻く情勢は一層厳しさを増し、海洋権益は深刻な脅威にさらされている」としています。

そして重点分野を従来の海洋資源開発から安全保障に移すとしたうえで、海洋の状況を適切に把握するため、人工衛星などで得られた情報を内閣府で一元的に管理し、防衛省や海上保安庁など関係府省庁で共有することや、同盟国や友好国と連携して海洋の監視体制を強化することを明記しています。

また北極圏での開発や研究を強化する方針が初めて盛り込まれ、資源開発などに関する国際的なルール作りにも積極的に取り組むとしています。

閣議に先立って開かれた政府の総合海洋政策本部の会合で、安倍総理大臣は「海洋をめぐる情勢が一層厳しさを増す中、政府一丸となって、わが国の領海や海洋権益を守り抜くとともに、開かれ安定した海洋を維持・発展させなければならない。各閣僚は新たな計画のもと十分連携し、各施策の実施に一層のご尽力をお願いする」と述べました。

防衛省に秘密指定の是正要求 独立管理監「最小限に」

共同通信 2018/5/16 02:00

2017 年の特定秘密保護法の運用状況に関する政府の報告書が 15 日、判明した。運用状況を検証する内閣府の独立公文書管理監が防衛省の特定秘密 1 件について指定の在り方に問題があるとして是正を要求。各行政機関は秘密指定を「必要最小限の情報で必要最低限の期間」に限定し、適正な運用を図るべきだとする意見を提出していた。

特定秘密が記録された行政文書（17 年末時点）は 14 機関の 38 万 3733 点で、16 年末から 5 万 7550 点増加した。

管理監の意見提出は、各行政機関の特定秘密の指定状況をチェックする内閣保全監視委員会宛て。同委員会は行政機関に見直しを求める権限がある。

統幕長、三たび任期延長へ 首相が高評価、政府方針

共同通信 2018/5/16 06:03/16 06:04updated





新潟県知事選への立候補を表明した前海上保安庁次長の花角英世氏＝15日午後、新潟市

前海上保安庁次長の花角英世氏（59）が15日午後、新潟市で記者会見し、米山隆一前知事の辞職に伴う新潟県知事選（24日告示、6月10日投開票）に、無所属で立候補することを正式に表明した。自民、公明両党が支援を決めている。

花角氏は「在任1年半での知事辞職という異常事態。一刻も早く県政の信頼を取り戻し、安定を実現したい」と出馬理由を語った。

東京電力柏崎刈羽原発（柏崎市、刈羽村）については、県が専門家に委嘱して進めてきた事故時の避難方法や健康への影響、福島第1原発事故の原因の検証を続ける意向を表明。「検証が終わるまで、再稼働は認められない」と述べた。

花角氏は1982年運輸省（現国土交通省）入り。海上保安庁次長を15日付で辞職した。2013年4月から2年余り、新潟県副知事を務めた。

知事選では、旧民進、社民両党系の会派に属する池田千賀子県議（57）が立候補を表明しており、事実上の与野党対決となる。この他、2人が出馬を表明している。（時事通信 2018/05/15-19:10）

翁長知事、膵臓がん公表＝退院も当面静養－沖縄

膵臓（すいぞう）に腫瘍が見つかり、切除手術を受けた沖縄県の翁長雄志知事が15日午前、同県浦添市の病院を退院した。午後に県庁で記者会見した翁長氏は、膵臓がんとの診断結果を公表した。今秋に予定される知事選への再選出馬については明言せず、「再発や転移を抑える治療を行う」と表明。当面は静養に努める予定だが、「一日も早く公務に復帰し、知事としての責任を全うしたい」と意欲を示した。

沖縄知事、一段と苦境に＝市長選3連敗、健康不安も

翁長氏は米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古移設に反対し、政府と対立を深めている。がんを公表したことで、知事選に向けてその去就に注目が集まりそうだ。

翁長氏は進行度を「ステージ2」と説明、「抗がん剤治療も合わせて（経過）観察していきたい」と語った。転移については、「リンパ節の中に一つ確認され、手術で切除したと聞いている」と述べた。

翁長氏は4月、人間ドックを受診した際に医師から再検査を指示され、膵臓に3センチの腫瘍が見つかった。4月21日に行われた切除手術は無事終了し、リハビリに取り組んでいた。県庁への登庁は約1カ月ぶりだった。（時事通信 2018/05/15-16:33）

沖縄県の翁長知事が退院 「負託に応えたい」

共同通信 2018/5/15 17:05



沖縄県庁で記者会見する翁長雄志知事＝15日午後

膵臓腫瘍の切除手術を受け、膵がんと診断された沖縄県の翁長雄志知事（67）は15日、入院先の病院を退院し、県庁で記者会見した。12月に任期満了を控え、次期知事選への対応について「公務をしっかりとこなしていくのがいま一番の眼目だ。その中で、私への負託に応えていきたい」と述べるにとどめた。

切除した腫瘍は約3センチで、がんの進行を表すステージは2だったと明らかにした。膵臓の周りのリンパ節に転移が確認されたが、切除したと説明した。診断に関して「冷静に受け止めながら、治療に向け全力を傾けて頑張りたい」と語った。定期的に通院し、抗がん剤治療を受ける予定という。

翁長氏ががん公表に波紋＝秋の知事選控え－沖縄

沖縄県の翁長雄志知事が15日、膵臓（すいぞう）がんであることを明らかにし、地元政界に波紋が広がった。今秋に知事選が控える中、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の辺野古移設阻止を訴える翁長氏の去就は地元のみならず、国政にも大きな影響を与える。社民党など県政与党は翁長氏の体調回復後の出馬表明に期待を寄せる一方、県政奪還を目指す自民党は、あらゆるパターンを想定して候補者の選定を急ぐ方針だ。

「当初の予定より早く、本日元気に退院した」。翁長氏は県庁で開いた記者会見でこう述べ、自らの体調に問題がないと訴えた。しかし、入院前に比べ、痩せたとの印象は拭えない。がんは「ステージ2」。リンパ節に転移があり、切

除したことも明らかにした。

翁長氏は知事選への対応について明言を避けたが、県政与党にとって翁長氏の再選出馬は既定路線となっていた。自民党を離れ、県内の保守と革新勢力を糾合することに成功した翁長氏のほかに、県民の支持を幅広く集められる候補者は見当たらないからだ。

こうした中で明らかになった翁長氏の病状。「辺野古阻止のために出てくれる」との期待感が依然としてある半面、「知事の家族が反対するならば出てくれとは言えない。そうなれば厳しい結果を覚悟しなければならない」（県議）と不安の声も漏れる。

翁長氏と対立を深める政府・自民党。菅義偉官房長官は同日午後の記者会見で、「ぜひ早く健康な体に戻ってほしい」と語った。ただ、県連幹部は「膵臓がんでステージ2なら、再選は困難とみるのが普通だ」と指摘。翁長氏の不出馬も念頭に置いた対応を検討する意向を示した。（時事通信 2018/05/15-20:03）

翁長沖繩知事、膵臓と診断 退院、選挙対応は明かさず 共同通信 2018/5/15 14:16



退院し報道陣にあいさつする沖縄県の翁長雄志知事＝15日午前、沖縄県浦添市

沖縄県の翁長雄志知事（67）は15日午前、入院先の同県浦添市内の病院を退院した。4月に膵臓腫瘍と診断され、同21日に切除手術を受けていた。午後には県庁で記者会見し、病理検査の結果「膵臓」と診断されたことを明らかにした。今後は再発や転移を抑える治療を受けると説明した。12月に任期満了を迎える知事選への対応は明らかにしなかった。

退院後、翁長氏は報道陣に「県民に大変心配を掛けた。一日も早く公務復帰し、任された責任を全うしたい。全力で頑張る」と述べた。

翁長氏は、12月の知事選について健康問題が立候補の判断に影響を与えるかどうか注目されている。

翁長知事、膵臓がんの切除公表 知事選の対応は明言せず 朝日新聞デジタル 2018年5月15日14時21分



退院して県庁に登庁した翁長雄志知事＝2018年5月15日午前10時55分、那覇市、伊東聖撮影

膵臓（すいぞう）の腫瘍（しゅよう）を切除する手術を受け、入院していた沖縄県の翁長雄志（おながたけし）知事（67）が15日に退院し、県庁での記者会見で、ステージ2の膵臓がんだと明らかにした。秋に予定される知事選への対応は明らかにしなかった。

翁長氏は4月に入院し、2～3センチ大の膵臓の腫瘍を切除した。約1カ月ぶりとなった会見では、病状について説明。検査の結果、膵臓で、膵臓近くのリンパ節にも腫瘍が見つかり、切除したという。今後、再発や転移を抑える治療をしていく。

知事選で再選に向けて立候補するのかわめられたことには「一日一日の公務をしっかりとこなす。それが一番の眼目」と述べるにとどめた。

◇

翁長雄志・沖縄県知事の記者会見の内容は以下の通り（冒頭は文章読み上げ）。

私が受けました手術および病理検査の結果と退院についてご報告させていただきます。まず経過報告ですが、4月6、7日と精密検査を行い膵臓（すいぞう）の腫瘍（しゅよう）と診断を受けました。その他の臓器も検査を行いました。腫瘍はありませんでした。腫瘍にも色々ありますので、診断を確定させるため手術的治療が必要と考えました。

4月23日に富川副知事、謝花副知事から記者会見させていただいた通り4月21日、浦添市の浦添総合病院において伊志嶺朝成（いしみねともなり）先生執刀で手術を受けました。手術は予定通り行われ、腫瘍部を切除し病理検査の結果を待ちました。

手術の翌日からは退院に向けたリハビリに取り組み、順調に回復したことから、当初の予定より早く、本日5月15日、元気に退院しました。浦添総合病院の福本院長、主治医の伊志嶺先生はじめ医師、看護師、リハビリ等、本当に温かい看護をして頂いた病院関係者の皆様、ご心配頂いた県民をはじめ多くの皆様に感謝申し上げます。

病理検査の結果、診断は膵臓の腫瘍膵（すい）がんと診断結果を受けました。診断結果を受け、今後は再発や転

移を抑える治療を行う予定です。一日も早く公務に復帰し、そして私に与えられました知事としての責任を全うしたいと考えております。

——今回の検査結果について。

「膵がんと診断結果を受けた。その結果についてだが、私は那覇市長になった6年目、胃がんで胃の全摘出手術を受けた。その時も回復に向けて色々あった。今回は膵臓の腫瘍。膵がんということでまた新たな課題だが、私からすると冷静に受け止めながら、これから治療に向けて全力を傾けて頑張っていきたいと思う」

——転移はないということか。

「転移については膵臓周囲のリンパ節の中に一つ確認された。手術で切除したと聞いている。これから定期的に通院をして抗がん剤治療も併せて検査、観察をしていきたいと思う」

——ステージは。

「切除した腫瘍は大きさ約3センチ。ステージは2と説明があった」

——当初、来週退院と聞いていたが、退院が早まった理由は。

「むしろ少し遅くなった理由だが、連休に入ったので数日遅くはなった。私が退院し、公務に徐々に慣れ親しんでいながらしっかりと任期を全うするためには、病院で丁寧入院の方がよかったのか、あるいは退院して、このように初日から記者会見をしてこれからの一日一日の公務をしっかりと果たせるように、あるいはまた、しばらくは自宅と県庁といいますか、仕事の割り振りがあろうかと思うが、徐々に徐々に仕事の中身を増やしていってということも含めると、今日がよかったのではないかと。先生も、病気が回復するという意味でも私の仕事に理解を示すという意味でも、今日が退院という意味ではふさわしいのではないかと。今日という日になった」

——検査結果を受け、1期目を全うするという考えに変わりはあるか。秋の知事選に出馬する考えはあるか。

「この病気にかかわらず、これまでの1年間は私が知事選に出馬するかというご質問等は色々なところで受けた。私はその度に、1期の4年間、一日一日しっかりと公務をやることで県民の判断にゆだねたいというような気持ちも含め、私からすると出馬というよりも、一日一日の公務についてやっていきたいと思っている。これからのことだが、幸い今、流動食等々でやせた。そういうことで体力回復がまだだが、ここ数日、ぐんと元気になってきたので、公務をしっかりとこなしていく。これが私の今一番の眼目でありまして。まずは、それをしっかりとやる中で、負託に応えていきたいと思っている」

沖縄の翁長知事が退院 腫瘍は「がん」 任期全うに意欲
NHK5月15日 12時54分



すい臓の腫瘍を切除する手術を受けて、15日退院した沖縄県の翁長知事は、県庁で記者会見し、腫瘍は「がん」だったことを明らかにしたうえで、再発や転移を抑える治療を行う考えを示しました。そのうえで、ことし12月までの任期を全うすることに意欲を示しました。

沖縄県の翁長知事は、先月21日、県内の病院ですい臓の腫瘍を切除する手術を受け、15日午前、退院しました。

このあと、翁長知事は県庁で記者会見し、「腫瘍はすい臓の診断結果を受けた。ステージ2で、再発や転移を抑える治療を行う予定だ。リンパ節への転移が1個見つかったが切除したと聞いている」と述べました。

そのうえで翁長知事は、「任期を全うするため、退院して徐々に仕事の中身を増やしていきたい」と述べ、ことし12月までの任期を全うすることに意欲を示しました。

一方で、秋に行われる県知事選挙に立候補するかどうかについて、「体力の回復がまだではあるが、ここ数日ぐんと元気になってきたので、公務をしっかりとこなしていくのが今の私の眼目だ」と述べるにとどめました。

県によりますと、公務については、当面、1週間に1日程度登庁し、体調を見ながら徐々に本格復帰を目指すということです。

訃報 毎日新聞社特別編集委員 岸井成格さん73歳
毎日新聞 2018年5月15日 21時03分(最終更新 5月15日 21時50分)



岸井成格さん
毎日新聞社特別編集委員でニュース番組のコメンテーター

一などを務めた岸井成格（きしい・しげただ）さんが15日、肺腺がんのため自宅で死去した。73歳。後日、お別れの会を開く。

東京生まれ。1967年慶応大法学部卒。同年毎日新聞社入社。ワシントン特派員、政治部長、論説委員長、主筆などを歴任した。

コメンテーターとして、TBS日曜朝の情報番組「サンデーモーニング」などテレビやラジオなどに数多く出演。2013年から16年までTBSの夜のニュース番組「NEWS 23」では、ニュースを分析し、掘り下げて伝えるアンカーを務めた。分かりやすい解説と歯に衣（きぬ）着せぬ発言で定評があり、14年には優れたテレビ作品などに贈られる「橋田賞」を報道番組の解説者として受賞した。16年にはTBSと専属契約を結んで「スペシャルコメンテーター」に就任した。

著書に「大転換 瓦解へのシナリオ」「議員の品格」、主な共著に「政変」「政治家とカネ」などがある。

岸井成格さん死去、73歳

JNNTBSNEWS5/15(火) 21:51 配信

「NEWS 23」のアンカーを務めた毎日新聞・特別編集委員の岸井成格さんが亡くなりました。73歳でした。

「NEWS 23」のアンカーやTBSのスペシャルコメンテーターを務めた岸井成格さんは、15日午前3時半すぎ、都内の自宅で、肺腺がんのため亡くなったということです。

岸井さんは1967年に毎日新聞社に入社し、政治部記者、ワシントン特派員を経て、2010年から主筆を務めました。テレビでも活躍し、2013年4月から3年間、「NEWS 23」のアンカーを務めたほか、「サンデーモーニング」のコメンテーターとしても政治に鋭く切り込みました。

岸井さんは2007年12月、「サンデーモーニング」で大腸がんを公表し、一時、出演を取りやめていて、去年10月にもがんの治療のため入院していたことを明らかにしていました。(15日 21:22)

毎日新聞社特別編集委員の岸井成格氏死去



岸井 成格氏（きしい・しげただ＝毎日新聞社特別編集委員）15日午前3時35分、肺腺がんのため東京都内の

自宅で死去、73歳。東京都出身。葬儀は近親者で行い、後日お別れの会を開く予定。

67年毎日新聞社入社。ワシントン支局、政治部長、論説委員長などを歴任。10年から約3年間主筆を務めた後、13年4月から現職。

TBSの情報番組「サンデーモーニング」など多くの番組にコメンテーターとして出演。13～16年には同局のニュース番組「NEWS 23」でアンカーを務め、14年には優れたテレビ作品などに贈られる「橋田賞」を受賞した。(時事通信 2018/05/15-21:57)

岸井成格さん、最後に言葉を絞り出し 関口宏さんら追悼 朝日新聞デジタル 5/16(水) 0:38 配信



岸井成格さん（毎日新聞社提供）

毎日新聞特別編集委員の岸井成格さんが亡くなったことについて、TBS系のニュース番組「NEWS 23」は15日夜に特集をした。岸井さんから番組を引き継いだ、元朝日新聞特別編集委員の星浩さんは「毎日と朝日で会社は違うけれどもいろいろと教えてもらうことは多かったですね。キャスターを交代するときに、『自然体で頑張れ』と言われたことを思い出します」と振り返った。

星さんは「岸井さんから二つのことを学びました。一つはジャーナリストは志を持たないといけないということ。毅然（きぜん）と権力に立ち向かう、理不尽なこととは戦うという精神を維持していかないといけない。もう一つは、岸井さんは難しい問題をやさしく、わかりやすく解説することに非常に優れた方だったと思います。とかく我々新聞記者は難しい話を難しく話しますから。岸井さんは自分の体験を踏まえて語ってくれた」と話し、「岸井さんの思いを引き継いで、志があってわかりやすい番組を続けていきたい」と結んだ。

TBS系「サンデーモーニング」で共演した関口宏さんも、コメントを寄せた。岸井さんについて「最後に会ったのは、春ちょっと前だったかな。でも、もうそのときね、言葉がなかなか出ない、そんな状態だったですよ。そのと

きに『何か言いたいことない』って聞いたらね、一生懸命、彼は声に出そうとして、『たるんじやったな、みんな』って言ったのを覚えています。あれが最後に聞いた彼の言葉だった。残念です」と話した。

岸井成格さん死去 「NEWS 23」のアンカーを務める 朝日新聞デジタル 2018年5月15日 21時22分



2016年、名古屋市で講演する

岸井成格さん＝16年11月

毎日新聞社特別編集委員で、TBS系のニュース番組「NEWS 23」アンカーを務めた岸井成格（きしい・しげた）さんが15日午前3時35分、肺腺がんのため東京都内の自宅で亡くなった。73歳だった。葬儀は近親者で営み、後日、改めてお別れの会を開く予定。

67年、毎日新聞社入社。政治部、サンデー毎日編集部、論説委員長などを経て、10年から主筆、13年から特別編集委員。テレビ番組に解説などでしばしば出演し、13年から3年間は「NEWS 23」のアンカーを務めた。

高市早苗総務相（当時）が16年に政治的公平などを定めた放送法4条違反を理由に放送局へ停波を命じる可能性に言及した際は「NEWS 23」の番組内で「健全な民主主義は自由な議論が重要。政府、政治、行政が安易に関与すると自由な議論を妨げてしまう。絶対にあってはならない」と発言。ジャーナリスト仲間と抗議の声明も発表した。

岸井成格さん死去、原点は戦争そして権力の監視

JNNTBSNEWS5/16(水) 1:35 配信

新聞からテレビまで、様々な場を通じて発信を続けてきた岸井成格さん。ジャーナリストとしての原点は、戦争、そして、権力の監視でした。

今から24年前、TBSテレビ「サンデーモーニング」に出演する岸井成格さんです。毎日新聞の記者を務めるかわら、テレビでは常に舌鋒鋭くニュースに切り込む姿がありました。

「NEWS 23」では、2013年4月から番組のアンカーに。2週間後、行政が水俣病と認めなかった患者を最高裁が初めて患者認定したニュースを取り上げた際には、記者の原点について、こう話しました。

Q. 岸井さんは、新聞記者として新人で配属されたのが熊本県だったということで、その当時から取材をしてきているんですよね？

「私にとって、記者活動のスタートは水俣病取材」（岸井成格さん・2013年4月16日放送）

自身もがんと闘っていた岸井さんは、自らががん治療の最前線取材。

「実は私も2度、ガンを経験しております」（岸井成格さん・2014年1月6日放送）

東日本大震災から3年がたった2014年3月11日には、被災地から中継を行いました。

「ちょうどあの時刻、私は新聞社でその日のニュースの打ち合わせをやっていたんですね。もう立ってられないほどの激しい揺れだった」（岸井成格さん・2014年3月11日放送）

現地を歩き、被災者の声に耳を傾けました。

「震災は決して終わっていない。そして、この記憶を風化させてはならない」（岸井成格さん・2014年3月11日放送）

震災を機に、原発のあり方も問い続けました。

「原発の安全神話は崩壊した。再稼働前にもう1回、5年たって考え直してほしいと思います」（岸井成格さん・2016年3月10日放送）

環境問題にも熱心に取り組み、植樹活動にも自ら携わりました。

歴史好きな一面をのぞかせることも。

「日本列島で一番最初にできたのが淡路島ということが、ちゃんと明記されているんですよ」（岸井成格さん・2015年5月20日放送）

そして、岸井さんは、激動するこの国の行く末に、厳しく注文をつけ続けました。特定秘密保護法案が衆議院を通過した日には・・・

「なぜそんなに強引に、しかも急いで成立させなければいけないのか。十分な説明がまだありません。また、多くの疑問や危険性の懸念も払拭されないままです」（岸井成格さん・2013年11月26日放送）

集团的自衛権の一部行使を容認した安保法制については、権力の暴走と厳しく批判しました。

「非常にあいまいな、そういう言葉が氾濫しちゃって、とても国民の耳には届かない、そういうことが多いんですよ。その中で、唯一、だんだんわかってきたことは、アメリカから要請があれば自衛隊いつでもどこへでも出しますよ、自衛隊を派遣しますよということだけは非常にはつきりしてきた。やっぱりこういうことで、憲法学者や国民の声に耳を傾けないという、自由な言論を認めないということは本当に権力の暴走ではないかと言わざるを得ないと私は思いますね」（岸井成格さん・2015年7月15日放送）

戦中生まれの立場から、戦争の記憶が薄れゆくことを危惧。戦後70年の沖縄慰霊の日、現地で取材に当りまし

た。

「沖縄にとって戦争はなお身近にあり、平和は本当に切実な願いなんです。それを踏まえて、私は、こちらのフリップにこう書かせていただきました。『沖縄の心』です。今、基地問題だけでなく、安保法制、憲法のあり方をめぐって、また国のあり方が大きく変わろうとしている、そういう転換点にあります。きょうの慰霊の日を沖縄だけでなく、私たち国民1人1人が考える、そうしたきっかけの日にしたいと思いました」(岸井成格さん・2015年6月23日放送)

そして2016年3月25日、岸井さんが「NEWS 23」を去る日がやってきます。

「今、世界も日本も歴史的な激動期に入ったんですね。そういう中で、新しい秩序とか、あるいは枠組みづくりって模索が続いているんです」(岸井成格さん・2016年3月25日放送)

その後も「サンデーモーニング」に出演を続けましたが、去年12月から、病状の悪化を理由に出演を見合わせていました。

関口宏さんは、15日夜・・・

「でもね、いつかは来ちゃうかなって思いはあったな。最後に会ったのは、春ちょっと前だったかな。でも、もうその時ね、言葉がなかなか出ない、そんな状態だったんですよ。その時に何か言いたいことはないって聞いたら、一生懸命、彼は声に出そうとして、『たるんじゃったな、みんな』。最後に聞いた彼の言葉だった。残念です」(関口宏さん)

岸井さんが伝えなかったことは・・・

「報道は変化に敏感であると同時に、やっぱり極端な見方に偏らないで、そして、世の中や人間としての良識、常識を信じて、それを基本にすると。真実を伝えて権力を監視する、ジャーナリズムの姿勢を貫くということが、ますます重要になってきているなど感じています」(岸井成格さん)

(15日23:18)

岸井成格さん死去 時代と向き合い 戦った人 人脈、視点

毎日新聞 2018年5月15日 21時19分(最終更新 5月15日 21時51分)

出会った時には既にスター記者だった。私が政治部に配属された1989年、岸井成格さんは政治部のデスクを務める一方、テレビのコメンテーターとしても活躍し始めていた。

政治家にとどまらない人脈。地球環境や文明史に及ぶ問題意識。10年、100年先を見据える視点。政治家に密着し、日々の動きをひたすら報じるのが政治記者だと思っていた私は驚き、以後ずっと背中を追いかけてきたのだ。

若い頃から血気盛んな戦う記者だった。

72年。時の佐藤栄作首相が退陣の記者会見をする際、「新聞は嫌いだ」と新聞記者の排除を言い出した。首相から売られたけんか。「じゃあ出よう」と真っ先に他社の記者に呼びかけたのは岸井さんだった。これが政治史に残る「延々とテレビカメラに向かい1人で語り続けた首相」の逸話につながる。

政治部長時代の仕事も紹介したい。

94年秋、米ニューヨーク・タイムズは公文書や証言を基に、米中央情報局(CIA)が50~60年代、自民党に巨額の資金を提供していたと報じた。自民党が「報道は侮辱だ」と強く否定する中、岸井さんは直ちに評論家の立花隆氏らと座談会を開き、朝刊の2、3面をほぼ埋め尽くして多角的に分析してみせた。

米国の思惑と日米関係の闇。文書をきちんと保存する米政府と、それを発掘する米ジャーナリズム等々、座談会では現在につながるテーマが語られている。こんな大胆な新聞作りを今、私たちはできるだろうか。

かねて憲法改正には柔軟で、決して「左」の人ではなかった。しかし3年前の安全保障法制成立の際には安倍政権の強引な手法も含めて批判。キャスターをしていたTBS「NEWS 23」では「メディアとしても廃案に向けて声を上げ続ける」と語った。

発言は、「政治的公平をうたう放送法違反だ」と岸井さんを名指しで批判する意見広告が一部新聞に掲載される異例の事態に発展した。岸井発言の影響力の大きさを物語る出来事でもあったが、岸井さんの記者魂にますます火をつけたように私には見えた。

衆院への小選挙区制導入の推進論者だった。だが最近では「小選挙区が政治の劣化を招いた」と忸怩(じくじ)たる思いを口にしていた。政治はどうあるべきか。もっと議論したかった。

昨年暮れ、毎日新聞社を訪れた時には、もう歩くのもしんどい状態だった。帰り際、私の肩につかまりながら、岸井さんは絞り出すような声で言った。

「情けない！」――。

民主主義とジャーナリズムの危機を強く感じていたにもかかわらず、テレビ出演もままならず、その思いを発信できない。無念だっただろう。もっと戦いたかったろう。私はぼろぼろ涙をこぼしながら一步一步、廊下を歩いた。

岸井さんが愛してやまなかった毎日新聞。出社はそれが最後となった。(専門編集委員・与良正男)

岸井さん死去 膳場さん「権力に臆せず、おかしな点指摘」

毎日新聞 2018年5月15日 21時28分(最終更新 5月15日 21時51分)



「NEWS 23」の記者会見でポーズをとる、膳場貴子キャスター（右）と毎日新聞の岸井成格主筆＝東京都港区のTBSで2013年3月21日、久保玲撮影
政界やメディア関係者からは驚きと哀悼の声

毎日新聞特別編集委員の岸井成格（しげただ）さんの訃報を受け、政界やメディア関係者からは驚きと哀悼の声が寄せられた。

慶応大で同じゼミに所属して以来、50年以上の交流がある評論家の佐高信さんは「とんでもなく寂しくなる」と述べ、しばらく言葉を失った。言論の自由を守ることに對するこだわりが強かったと振り返り、「取材相手と真正面から向き合っただけで信頼を得ていた。力で言論を抑え込むことを排し、言論には言論で挑むことを大切にしていた」と話した。

岸井さんの妻から「(夫の) 体調は良くないが、カステラなら食べられる」と聞き、14日に自宅に送ったばかりだったという。

佐高さんを通じ、20年ほど前に岸井さんと知り合ったというジャーナリストの田原総一朗さんは『反・安倍晋三』『反・自民党』とたたかれたが、それは違う。『保守』『革新』といった政治的立場ではなく、間違っただけは正すべきだというジャーナリストとしての信念があった。社会が混迷を深めている中で、残された私たちは頑張らなくてはならない」と惜しんだ。

TBS夜の報道番組「NEWS 23」アンカーだった岸井さんと3年間一緒に出演したキャスターの膳場貴子さんは「権力に対し臆することなくおかしい点を指摘できる尊敬すべきジャーナリストだった。親子ほど年の離れた私にも理解の深い方で、私が出産後仕事に復帰した時も喜んでくださった」と振り返った。最後に会ったのは今年2月。

「家族で病室を訪ねると、痛みに耐えながらも娘に笑顔を見せてくれて、病室を後にする時、力強い握手を交わした。少しでも遺志を継げる報道人になりたい」と冥福を祈った。

小泉内閣で官房長官を務めた自民党の細田博之衆院議員は「私が通産省から石油公団事務所に転向していた1983年から85年ごろ、ワシントンで一緒だった。名物記者だった。テレビで辛口のコメントをしていたが、惜しい人を亡くして残念だ。ご冥福をお祈りします」と語った。

【高島博之、高橋昌紀、中澤雄大、田中裕之】

… “最後” の言葉明かす

ディリースポーツ 5/15(火) 23:25 配信



関口宏

TBS「サンデーモーニング」（日曜、前8・00）などのコメンテーターを務めていた毎日新聞特別編集委員、岸井成格（きしい・しげただ）さんが15日午前3時35分、肺腺がんのため、都内の自宅で亡くなった。73歳。岸井さんは病状悪化を理由に、昨年12月3日を最後に、同番組を休んでいた。同番組でパネリストだった岸井さんと長年コンビを組んでいた司会の関口宏は15日、TBSの取材に応じ、「いつかは（お別れが）きちゃうかな、っていう思いはあったな…」と話すと、天を見上げ、涙をこらえた。最後に会ったのは初春。すでにその時、なかなか言葉を発することができない状態だったというが、関口が「何か言いたいことはない？」と聞くと、「たるんじやったな、みんな」とぼつり。「あれが最後に聞いた彼の言葉だった」と明かし、「残念です」と言葉を振り絞った。

関口のインタビューは15日夜、「NEWS 23」で放送された。

岸井さんは1967年、毎日新聞社入社。政治部、ワシントン特派員などを経て、主筆などを歴任した。

2013年4月から16年3月まで「-23」のアンカーを務め、歯に衣（きぬ）着せぬ発言で知られた。16年にはTBSと「専属スペシャルコメンテーター」契約を結び、16年3月末で「-23」を降板している。

07年には大腸がんを告白。14年の時点で2度がんを患ったことを明かしていた。

関口宏 盟友・岸井成格さんの死に涙こらえ「残念です」